

・ 気が付いたこと。

・ 身近な脱炭素を考えると、そのほとんどが既に  
仙台市で実施していることを感じました。

考える事は一緒なんです。

・ グループで話した、考え方に興味深かった！

・ 自分を取り組めることが多くあった

・ 電気自動車は使うだけではいいではない

・ 日々の生活が温暖化に大きな影響がある

生活している社会の中で、女子関係、  
機関等と密接に関連していることを改めて  
感じた。

一つひとつについて、脱炭素を少しでも実践  
していると思った。

自宅で出来る事は、やってたり  
知っている人が多々いると思うが企業や  
仙台市がどんな取り組みをしている  
とどのくらいCO<sub>2</sub>を削減できている  
のか、自分たちで調べたいと思  
い分かんないと思った。

1. 温暖化を体験した世代と知識を知っている世代の  
交流を通い、実感に結びつけたこと

2. 温暖化の影響から、発主体と削減規模の  
相違について分かたこと

駅集込での問題と、郊外での問題とでは、  
また違った問題があることを知れた。

仙台市はゼロカーボンの取り組みが盛んだと思っ  
ていたが、長野や鎌倉のように、さらに盛んな市がある  
ことを知れた

→人口が多いとなかなか難しいのかと感じた。

競争市場との兼ね合いもあるため、行政機関→民間企業への働きかけは難しいことを実感したと併に、だからこそ私たち市民が商品の選択(投票)などによって声をあげていかねばならないと思ふ。

録のカーテンの語で、ハチマはスポンジの代替品にするので良いのではないかという意見があった。首の日本の知恵にも良いヒントがかくれているのでは...?

今日はさらにくわしく勉強させてもらいました。

本当にゼロカーボンにできるのか、生きていたら多少ともCO<sub>2</sub>をだすのではないのか、ゼロの上限はあるのか、知りたい。

個人の努力で取組めることには  
限界が<sup>あり</sup>~~あり~~と思った。法整備、  
税制、補助金等の国、自治体、  
レベルでの枠組とお金の流れが  
必要だと思う。あとは市民・国民の  
意識を高めていくことが必要。

- 思ったより意識したら変わリそうな事が  
多々あった。
- 家族・会社の人に10月の話しをしつはみだが、  
内容が薄い素人が、興味ない人に伝ふるむずかしい。
- 10月打ちも、意識↑考えがちとは変わった  
様に見える。
- 隣の名取市民に伝えようがたい。  
隣

身近な事からやってみる

次世代の事を考える

食品ロスの減少<sup>を</sup>版心がける

〇エネルギー住宅の検討

フルムーンパスの復活

(旅行の手段を車から列車に)

- 。皆さんのいろいろなアイデア等をお聞きすることができ、楽しかったです。
- 。本気でゼロカーボンについて学び、そして何をすべきか考える。行動に繋がっていく必要性をあらためて感じる会でした。
- 。地球、未来についてのアイデアは少めだ、だけど、1つ1つの積み重ねが、全て地球、未来にひも付くと感じます。

おこなが 00 しなき いけない 行動上りも。  
生活の上でお得だから、梨だから自然とやっちゃう  
行動を脱炭素につなげるのが いいと思った。

若い方の考之に感動しました。

全員<sup>から</sup>~~が~~それぞれに意見が出  
さすのがいい。

毎~~週~~<sub>回</sub>学習させられます。

## ふりかえり

- ・はじめに、脱炭素対策を考えるのは難しそう  
だと思っていたが、3つの観点に分けて考えることで  
思っていたよりも沢山のアイデアを出ることができた。
- ・グループの方のアイデアは自分で思いつかないような  
視点のものが多く、とても新鮮だった。
- ・前回会議後に比べて、今回の方が帰宅後すぐに  
取り組めそうなアイデアが沢山あったと感じた。

→ 脱炭素といういろいろなセクターには  
関係するからわかり易いよって  
の 講義の話が早くよかったです



脱炭素のために様々な観点から  
自分たちにできることや企業や自治体への  
要望を出し合って、ゼロカーボンシティの  
未来図のようなものをグループで作り上げて  
いるように感じました。自分たちにできること  
は少ないけれど、このような機会も  
ゼロカーボンに近づいていくこと  
と思えます。

直接的な対策手段を考えた自分にとって、連鎖的な  
反応の意図やある意見を聞いて新しい視点を得ることができた。  
より地域に根付いた課題と結びつけている意見を  
知って、自分の知らない地域の一面を知ることができた。

気がき・感じたこと

- ・自治体が推奨していることでも対応が行き届いてないものがあることが分かった。
- ・やらないのではなく、できな~~い~~<sup>い</sup>理由があるものもある？

気づいたこと、感じたこと。

- ・日々のこまかな取り組みがゼロカーボンにつながる。ひとりひとりがやれる事は思っていたより多かった。
- ・太陽光発電初期費用0円等、知らない補助が様々あることがわかった。  
予算消化(打ち切りとならな<sup>次年度以降</sup>いように)できるものは、活用していこうと思

2回目ですが、だんだんと 関心が  
高まるとともに 勉強にもなりました。

自分の考えだけじゃなく 色々な方の  
話が聞けて 良かったです。

本当に 一市民ですが... 未来の為に  
行動したいです ...

・自分とは違う立場での

意見、やってほしいことが

まけておもしろかった。(親、建設業、...

・自分で 脱炭素のために何か

できよか明確になった。

立場、年齢に依り切り出しの視點

(解決)案(子)と(母)と。この構成×211111

不もしろいと思ひました。とり返しのいらい

感の方。右の方(情報)事の下

か(子)と思ひます。どうも方法の良いや

小

楽しく、わたりや

生活と豊かには??

(脱炭素の)

○ 施策を考へる上で、現状の生活田にある不便士の解決に、脱炭素の観点を含めて考へると、様々なアイデアが浮かんで来た。(無理矢理脱炭素を取り込むのはなく...)

○ ~~現状ある生活~~今のク"ル-707-7のやり方。

脱炭素に向けて自分かいて生きるとして7"11=スト-

ミ>ク"目的に出す=とで、意識が変わる気がした。

(普段の生活で脱炭素について考へる時10か

1のため、このような機会を重要だと再認識した)

脱炭素に向けて個人単位でできることが思っていたように  
たくさんある気がした。

いつも何気なく利用していたシャワー、部屋の電気、  
宅配便のトラックにも少しの配慮で脱炭素につながる  
ように感じ、取り組む人のハートが下がったふう  
に思えた。

特に家の中で今日からすぐにはできないようなこと  
がいろいろあった!

① 自宅での事は、すぐ考えられましたが、

外出先、移動での脱炭素については、あまり考えていませんでした。

特に、電気自動車やバイク、電気で動く車など、

太陽光パネルを付けて、15年にもなるかも

これからどうすればいいのかな、考えていたんです。

蓄電池の事など

世代の違う人との話で: テーマが同じでも、考え方が違うのがわかりました。

又、電気自転車の件ですが以前、まっすぐ並んだ時に音がしなくて出発できるのですが耳の遠い方が多くなって今、エンジン音ぐらゐると事故が起きるのでは? と思い、今日のテーマとはちょっと違うのですがここに書きました。

世代によつて地球温暖化に対する感じ方が大きく異なるのだと思つた。

二酸化炭素排出量など、もっと可視化できれば、誰もが実感しやすく。

当事者意識を持つことができればと思つた。

今まで、「地球温暖化」について、自分自身意識している  
方だと思っていたが、今日の会議の中で、多種多様な意見  
があり、もと意識できる所が見つかった。  
家族などにも共有して、もと考えていきたいと思う。

脱炭素は、学生から  
教育するのがよいと思う

生活に身血はテーマだったので、とても勉強  
になりました。自分にはいるアイデアや、各人の異なる  
バックグラウンドから来る考えと知ることか  
でよかったです。

前回(1回目)に比べて、今回の内容  
は、普段の自分に直接的に関わるもの  
だった。関心を持ったことは、具体的に  
行動に表してみたい<sup>特に</sup>(太陽光発電)と  
感じた。



住宅、交通など、時間がかかる  
ことが大きい効果につながるよう  
な気がする。やれることは全部  
やってほしいけれど、半減やゼロ  
に実感がわかない。だからあきらめようとは  
言いませんが。

気づいたのは、今更にあたりかたにできて  
いたとか、最近できてなかった。例えば..  
スーパ、人の異物時環境への参考。

朝感じた事は、一人では考えもなし..  
争い、<sup>心</sup>たか<sup>心</sup>の美、目を開きこいて  
考えをわかりに来た。

テーマが前回よりも身近だったので。

グループワークが盛り上がり、た。

アイデアがたくさん出たので、実現したい。

実現してほしい物ばかり。

他人任せにしないで自分ができてる事を  
一つずつ積み重ねていこうと感じた。

いろいろな世代の方々が取りこみやすいシステムを  
考えるのは難しいと感じた。

分かりやすい表示などがあると買い物時の選択が  
しやすくなると思った。

- ・ 節約がゼロカーボンにつながる。
- ・ ゼロカーボンにはお金がかかる。

・ 自己意識への改革

・ 企業、自治体へのかかわり方

・ 難しい問題も多くあり、勉強ほうも  
思ひ出し。

仙台で働きながら生活する - 市民であったが、今日のお話を聞いて思っていた以上に自分の知らない、世界基盤での脱炭素のとりくみをしている企業があるのだと知りました。

自分一人だとあまり浮かばないが、グループで意見をだし合うといろいろな意見が出てきて、刺激を受けました。

気づいたこと、や 感じたこと。

・ 脱炭素への取り組みは、大きなことであるけれど、

まずは、小さなこと、自分に出発することから

始めてみようという意識が芽生えました。

・ 実現できるかどうかは、別として、

アイデア出しは、面白かったです。

三

車の渋滞によるエネルギーの無駄遣いを少なくできれば、  
というアイデアが私にはなかったので、より考える機会になったと思います。  
そのためには、公共機関の利用、時間をずらして行動するのも良いと思いますが、  
道路を広くする等の対応もあるとのこと。

今日色々なアイデアがもてたので、次回につなげていきたいと思っています。

普段、自治体ごとの取り組みを行えるか、という観点の下、  
大学で学んでいるのが、地球・未来のために私たちに何が何と  
できるか？何ができないか？という視点でアイデアを出せて楽しいこと  
です。

参加者の方の立場から<sup>の</sup>新しいアイデアをきくのは非常に  
興味深かったです。

子どもたち向け、まちづくりなど、未来のためのアイデアが  
沢山出ていたのも良かったです。